

# 施策マネジメントシート(平成29年度の振り返り、総括)

作成日 平成 30 年 6 月 21 日

基本目標	V	豊かな心と文化を育むまち	主管課	名称 教育課 課長 杉木 隆司
施策	29	文化財の保存と活用	関係課	

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
	①町民 ②町内の文化財	①文化財に対する意識を高め、保護や継承を行う。 ②適切に保護され、後世へ継承される。		基本事業	1 文化財の保存
			2 文化財の活用	町民	文化財に関心を持ち、重要性を知る。
			3		
			4		
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				A 文化財の保護活動参加者数	人	実績値		320	303	565
			目標値		320	320	320	320	320	320
B 地域の伝統芸能に参加している町民の割合	%	実績値	10.7	11.1	8.3	8.5	9.2	8.5	19.1	
		目標値		10.8	11.0	11.2	11.4	11.6	11.8	
C 保護・継承されている指定文化財の数	件	実績値	96	96	98	97	102	102	103	
		目標値		97	98	98	99	99	100	
D 地域で継承されている伝統芸能の数	件	実績値	30	30	30	30	30	30	30	
		目標値		30	30	30	30	30	30	
E		実績値								
		目標値								
F		実績値								
		目標値								

**指標設定の考え方と実績値の把握方法**

A) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。  
 主管課が毎年保護活動に対する謝礼を支払う際に年間の活動実績を調査  
 指定文化財で維持管理に経費の生じるもの(指定文化財全体の約4割)については管理者に対して実績報告に基づき謝金(5,000円～10,000円)を支払っている。

B) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。  
 町民アンケートにより把握  
 ※あなたは日頃、文化芸術に触れ親しんでいますか。→「地域の伝統芸能(祭りや神楽、獅子舞など)に参加する」と回答した人の割合

C) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。  
 主管課で実数を把握

D) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。  
 主管課が毎年保存会等代表者に直接聞き取り調査を実施

**目標値設定の考え方**

A) 地区や神社の役員などがこれに当たるが、年々減少の傾向にあり、成り行き値は2年ごとに5人ほど減少すると予想される。文化財の啓発普及活動を活発にするなど郷土愛とともに地元の文化財を自分たちで保護するという考え方を広める工夫を行うことなどにより現状を維持する。

B) 伝統芸能の本来の意味に賛同し、継承に新たに保わってくれる人を確保するのは困難であり、高齢化が進行するため、伝統芸能の保護継承に携われる人が徐々に減少するのではないかと。

C) 今後、指定文化財として指定される可能性のあるものが数件ある。文化財保護委員の活動が活発であり、増加する可能性が高い。2年に1件のペースで増やし、平成29年度に100件をめざす。【沼田市:91件(H28)、片品村:65件(H28)、川場村:10件(H28)、昭和村:21件(H28)】

D) 現在のところ教育委員会で把握している地域の伝統芸能(太々神楽、獅子舞など)は30件である。いずれも人員・予算的にギリギリの状態であるが、参加者を地元の地区以外からも募集するなど様々な工夫をこらして継承している。多少なりとも教育委員会として応援し、現状を維持することを目標とする。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①身近にある地域文化や文化財に関心を持ち、その重要性を認識するとともに、保護・啓発に努める。 ②地域の伝統行事に積極的に参加し、後世に継承する。 ③保護行政の理解・協力を努める。	①文化財に関する情報を発信するなど、町民の意識啓発を行い、郷土や歴史への認識を深める。 ②建物・史跡・美術工芸・天然記念物等の有形文化財を調査し保護管理する。 ③文化財の保護活動や後継者の育成を支援するなど、地域文化の継承を推進する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①文化庁は従来文化財の保護を重視してきたが、最近では活用にも力を入れ始めている。しかし、観光目的重視というわけではなく、あくまでも文化財保護をクリアしたうえで観光等に活用するという考え方である。 ②町文化財調査委員は意欲的であり、新しい指定文化財が増えていくと考えられる。 ③人口減少や少子高齢化により、伝統芸能の継承者が減少。後継者育成が困難な状態になる。	①文化財等の保存意識の強い住民から、伝統行事の衣装や備品、文化財の修繕に関する要望が多い。 ②文化財の公開の仕方を考えてほしい。特に名胡桃城址や矢瀬遺跡。 ③予算的な措置と合わせて後継者の募集なども協力して欲しいとの要望がある。

施策	29	文化財の保存と活用	主管課	名称 教育課 課長 杉木 隆司
----	----	-----------	-----	--------------------

施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	実績比較		背景・要因
	① 時系列比較	<input checked="" type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①文化財の保護活動参加者は平成27年度に実績値の算定値を精査した結果795人と最大値に急増した。その後も若干減少傾向にはあるが、平成29年度においても705人と高い数値を維持している。 ②地域の伝統芸能へ参加している町民の割合は、ここ数年8～9%台に止まり、目標値に届かない状況であったが、平成29年度は19.1%と急増する結果となった。(平成29年度中に町民アンケートの設問内容に「鑑賞することも含む」を追記した事も急増した要因であると考えられる) ③指定文化財数は順調に増加し、平成29年に1件増え103件となった。 ④地域で継承されている伝統芸能の数は、地域住民の努力によりここ数年減ることなく維持できている。
	② 他団体との比較	<input checked="" type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①近隣自治体と比較して、指定文化財の数は非常に多い。要因として、歴史的遺産を文化財指定するには、文化財調査委員や教育委員会の判断によることから、町民の歴史に対する意識が高いことがうかがえる。 また、一般的に街道沿いには文化財が多いことから、三国街道があったことも大きな要因と考えられる。  ※平成30年3月31日現在の各市町村の指定文化財数(単位:件) みなかみ町 国:8 県:22 町:73 計:103 沼田市 国:3 県:14 市:74 計:91 片品村 国:4 県:6 村:54 計:64 川場村 国:0 県:5 村:5 計:10 昭和村 国:0 県:2 村:19 計:21
	③ 目標の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①文化財の保護活動参加者数 参加者数のピークであった平成27年度と比較すると若干減少はしているが、目標値である320人を大きく上回り705人である。文化財保護活動の大切さについて、周知を継続していることで、関係者の取り組む意欲が維持されているためと考える。 ②地域の伝統芸能に参加している町民の割合 目標値11.8%を大きく上回り19.1%となった。(平成29年度中に町民アンケートの設問内容に「鑑賞することも含む」を追記した事も急増した要因であると考えられる)また、羽場日枝神社獅子舞が県指定文化財に格上げになるなど明るい話題が、地域に広がり、伝統芸能が身近なものとして受け入れられてきたのではないかと考える。 ③保護・継承されている指定文化財の数 当初の目標であった2年に1件を指定し平成29年度までに指定文化財を100件とする目標は、平成27年度にすでに達成し、平成29年度には103件となった。 ④地域で継承されている伝統芸能の数 目標値どおり30件を維持できた。しかし、人口の高齢化・減少を起因として、地域に伝わる神社行事などの伝統芸能が衰退・無くなってしまふ恐れは依然として残っている。
成果実績に対する総括	①指定文化財および伝統芸能の数については目標どおりである。重要文化財や史跡、天然記念物など物件としての文化財は残りやすいが、伝統芸能など無形文化財等は、それに関わる人がいなくなるや消滅する恐れがある。現在、指定文化財に関しては所有者・管理者に対して管理状況等を調査し、それに対して文化財管理謝金を支払う措置を施すことにより文化財の保護・継承に努めている。また、伝統芸能など無形文化財については、一度絶やすと再興が難しく、後世に実際の映像を残すために実演風景を記録媒体へ録画した。 ②猿ヶ京城址を新たに町指定文化財として登録した。 ③文化財保護法が改正され、従来の文化財保護に加え活用を積極的に行うことが加えられた。その為、平成29年度は地域の特色ある埋蔵文化財活用事業として国庫補助金を活用し、文化財シンポジウム2回(名胡桃城址・水上石器時代住居跡)・パンフレットの新規作成等・案内導入板及び説明板の設置を行い町内文化財の活用につなげた。 ④小中学校伝統芸能教室として古馬牧人形浄瑠璃の体験教室を継続的に実施し、伝統芸能の周知・普及に努めた。(平成29年度:月夜野中・月夜野北小の2校で実施)		

今後の課題と取り組み(案)	基本事業名	今後の課題	今後の取り組み(案)
	1 文化財の保存	①文化財は時代の経過と変化する社会情勢の中で、遺失・風化・管理者不足・老朽化等諸課題が懸念されている。計画的な保存と普及活動を進めることが必要である。 ②伝統芸能・文化は過疎化や高齢化に伴う後継者不足や道具等の損傷により、その継承や保存が厳しい状態である。一度絶やすと再興が難しいため、効果的な施策が急務である。	①早急な修繕が必要な国指定・旧戸部家住宅並びに雲越家住宅のかやぶき屋根修復事業を行う。 ②小中学校伝統芸能教室として古馬牧人形浄瑠璃の体験教室を継続して実施し普及に努める。 ③伝統文化の保存・継承に向けた支援・助言を行う。
	2 文化財の活用	①文化財の保護を前提に、一過性では無い恒常的な観光・学習資源として活用を図る施策の展開が必要である。 ②町内5ヶ所の資料館の展示に工夫を凝らすなど、資料館の活性化を図る必要がある。	①町の歴史ガイドや、関係部署等と連携し、文化財を活用した事業の展開をはかり、観光資源としての活用を進める。 ②資料館を、有効的に活用するための展示内容等を検討し運営方法の充実を図る。 ③学校や町民に対し、パンフレットや資料の利用を促し、文化財への関心と、学習教材としての活用を進める。
	3		
4			

## 29\_文化財の保存と活用

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000001	国指定文化財管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	350,957 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		文化財保護事業の中でも国指定文化財に限定した管理事業。現在、8件のみなかみ町指定文化財があり、主に草刈り、清掃等の環境整備を行っている。毎年、県から依頼される「地方文化行政状況調査」、「特別地方交付税算定調査」等で国、県、町指定文化財それぞれの経費をあげなければならないため、国、県、町で分けなければならない。		町外文化財に対する積極的な視察・研修を行い、国指定文化財の保護管理業務の参考とした。今年度は雲越家住宅の現地説明資料に中之条町旧富澤家住宅の方法を取り入れた。		事業実績				
	基本事業	01	文化財の保存						②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		主な文化財の見学者数(雲越家住宅・旧戸部家住宅)
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	担当者の専門性が要求される。そのため、調査、研究をしていく必要がある。また、矢瀬遺跡は国庫補助事業により大規模な原状復旧作業を行う必要がある。		平成28年度		平成29年度	単位	
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10			項	5	目	4	1,445

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000002	県指定文化財管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	3,168,124 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		文化財保護事業の中でも県指定文化財に限定した管理事業。現在、22件の県指定文化財があり、主に草刈り、清掃等の環境整備を行っている。毎年、県から依頼される「地方文化行政状況調査」、「特別地方交付税算定調査」等で国、県、町指定文化財それぞれの経費をあげなければならないため、国、県、町で分けなければならない。なお、平成22年度より名胡桃城址保存整備委員会を設立。今後、名胡桃城址の保存管理計画を策定すると同時に史跡整備を行っている。		町外文化財に対する積極的な視察・研修を行い、県指定文化財の保護管理業務の参考とした。今年度は旧足利学校の事例を参考に猿ヶ京関所跡で毎年10万円分の差茅修繕を行う計画をたてた。		事業実績				
	基本事業	01	文化財の保存						②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		主な文化財の見学者数(名胡桃城址)
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	担当者の専門性が要求される。そのため、調査、研究をしていく必要がある。		平成28年度		平成29年度	単位	
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10			項	5	目	4	67,141

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000003	町指定文化財管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	373,174 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		文化財保護事業の中でも町指定文化財に限定した管理事業。現在、66件のみなかみ町指定文化財があり、主に草刈り、清掃等の環境整備を行っている。毎年、県から依頼される「地方文化行政状況調査」、「特別地方交付税算定調査」等で国、県、町指定文化財それぞれの経費をあげなければならないため、国、県、町で分けなければならない。		町外文化財に対する積極的な視察・研修を行い、町指定文化財の保護管理業務の参考とした。今年度は町外の山城を参考に小川城址パンフレット作成に取り組み、下書きまで作成した。		事業実績				
	基本事業	01	文化財の保存						②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		月夜野郷土歴史資料館見学者数(町指定文化財を展示している)
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	担当者の専門性が要求される。そのため、調査、研究をしていく必要がある。		平成28年度		平成29年度	単位	
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10			項	5	目	4	260

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000004	埋蔵文化財調査事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	0 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		埋蔵文化財包蔵地で開発が行われ、それに伴い発掘調査が行われる場合に必要となる事業。したがって、普段は行わない事業であり、当初予算も計上していない。なお、町村合併後の実績はほとんどなく、年間1件程度の試掘調査だけである。ただし、このほか平成25年度から平成27年度までの3ヶ年計画で、国史跡水上石器時代住居跡の遺跡範囲確認調査を実施する。		県文化財保護課が行った試掘調査の立ち会いをさせていただき、現場での調査要領等を視察した。		事業実績				
	基本事業	01	文化財の保存						②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		埋蔵文化財包蔵地確認(照会)
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	いつ、調査が必要になるかわからないため、常に調査研究を行い準備をしておく必要がある。また、出土遺物を資料館等で展示しなければならない。		平成28年度		平成29年度	単位	
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10			項	5	目	4	36

## 29\_文化財の保存と活用

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000005	文化財調査委員会事業					① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	410,363 円			
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				文化財調査委員を招集し、文化財の保護と啓発普及のために調査委員と連携して文化財全般に関する調査研究を行う。	調査委員から指摘されていた新治地区中世城郭を文化財指定するため、類似史跡の視察・研究を継続した。これに基づき猿ヶ京城址に関する諮問・答申を行えた。	事業実績				
	基本事業	01	文化財の保存						資料館(月夜野・水上・雲越)見学者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	4	1,705	1,895	人
担当者の専門性を高める。							継続して中世城郭の新たな文化財指定、またはすでに指定されている城郭の調査研究を行い、啓発普及に努める。						

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000001	月夜野郷土歴史資料館管理運営事業					① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	1,988,123 円			
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				月夜野郷土歴史資料館の管理運営	地元の町組より活用促進を求める請願が提出され、議会でも検討されている。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						来館者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	3	260	457	人
撤去費用が高額であり、その計上方法を検討しなければならない。							関係部署、地元団体等と連携し、見学者が増加するよう工夫をしていく。						

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000002	水上歴史民俗資料館管理運営事業					① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	51,737 円			
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				水上歴史民俗資料館の管理運営	数百点にわたる展示物のキャプションを書き換えて新しくした。また、大型の年表も新たに作成した。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						来館者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	3	986	972	人
専門分野に関わることであり、担当者による研究が必要。また、観光部門との提携、より一層の展示内容の工夫が必要。							展示物自体を見直し、テーマをもった資料館展示に変えていく必要があり、調査研究を継続していく。						

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000003	雲越家住宅資料館管理運営事業					① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	447,404 円			
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				雲越家住宅資料館の管理運営	みなかみ町教育旅行者と連携して団体客の入り込みを行った。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						来館者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	3	459	466	人
地域住民の協力と観光部局との連携							地元、観光関係者等と連携して団体を中心に見学者を増やしていく。						

## 29\_文化財の保存と活用

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000004	永井宿郷土館管理運営事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	500,000 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				予算上は郷土歴史資料館等管理運営事業に統合している。	指定管理事務を行い、地元永井区に管理全般を委託した。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						来館者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	3	511	517	人

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000005	県博物館連絡協議会参画事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	10,000 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				群馬県内における公設・私設資料館および美術館等の連絡協議会事務。	できる限り総会・研修会等に積極的に参加することにより、他の資料館等と連絡調整体制を維持した。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						入館者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	3	260	457	人

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000006	猿ヶ京関所資料館管理運営事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	1,364,922 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				猿ヶ京関所資料館の管理運営	猿ヶ京温泉地区活性化委員会に参加して、地元における猿ヶ京関所跡の位置づけを確認するとともに今後の活用計画(資料館として一般公開を行う事等)を周知した。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						入館者数				
根拠	無	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	継続事業	年間	会計	1	款	10	項	5	目	3	1,316	1,179	人

平成 29 年 8 月 21 日作成 (平成 30 年 7 月 6 日更新)

事務事業	000007	埋蔵文化財活用事業				① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	2,063,724 円				
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用				埋蔵文化財活用を促進するため、国・県・町指定史跡を中心に案内板設置、パンフレット作成、講演会を行う。	文化財指定されているが未整備の埋蔵文化財3件のパンフレットを新規に作成して、活用につなげた。	事業実績				
	基本事業	02	文化財の活用						新たにパンフレット、看板を作成して活用につなげられた埋蔵文化財数				
根拠	有	組織	教育	課	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成28年度	平成29年度	単位		
事業期間	新規事業	H 29 ~ 1 年間	会計	1	款	10	項	5	目	4	-	3	件

